

1. ルター 2. クビライ・ハン 3. ナポレオン 4. ワシントン

1. 宗教改革 — イエズス会 2. ルネサンス — 十字軍 3. ルネサンス — イエズス会 4. 宗教改革 — 十字軍

1. 武家諸法度 2. 分国法 3. 御成敗式目 4. 公事方御定書

1. キリシタン大名 2. 戦国大名 3. 寄親 4. 守護大名

1. 御成敗式目 2. 武家諸法度 3. 分国法（家法） 4. 公事方御定書

1. 家臣に領地の経営を完全に任せることで、大名が外交や文化活動に専念するため	2. 家臣に独自の関所を設置させることで、商工業者から税を徴収しやすくするため	3. 家臣を農村から切り離して監視下に置き、大名の支配力と軍事動員力を高めるため	4. 家臣を海外貿易の拠点に近い沿岸部に集め、輸入品を独占的に管理させるため
---	---	--	--

1. 種子島に漂着したポルトガル人によって、1543年に伝えられた。	2. 日明貿易の進展に伴い、日本の商人が中国から直接買い付けて持ち帰った。	3. キリスト教の布教を目的としたスペイン人の宣教師によって、平戸で初めて紹介された。	4. 元寇の際に、元軍が使用していた「てつほう」を日本側が改良して国産化した。
------------------------------------	---------------------------------------	---	---

1. キリスト教の布教活動を支えるための寄付金として活用するため
2. 農村での貨幣経済を禁止し、年貢をすべて銀で納めさせるため
3. 鉄砲や火薬などの軍需品を調達する資金や、家臣への恩賞とするため
4. 朝廷から高い官位を得るための献上物として独占するため

1. 鉄砲の威力に対抗するため、高い石垣や厚い壁、複雑な堀を備えた城が築かれるようになった。

2. 鉄砲による火災を防ぐため、城の周囲に広大な水堀を作るのをやめ、空堀が主流となった。

3. 鉄砲の重さに耐えられるよう、城の主要な構造物がすべて巨大な岩石のみで作られるようになった。

4. 鉄砲の射程距離を避けるために、城はすべて人里離れた険しい山頂にのみ築かれるようになった。

1. 朝廷から与えられた守護としての特権を誇示し、伝統的な荘園領主の権利を保護するため。
2. 海外との貿易を独占し、キリスト教の布教を認めることで南蛮文化を取り入れるため。
3. 将軍の命令を全国に徹底させ、守護大名の権限を制限することで幕府の権威を取り戻すため。
4. 領内の武士や農民の行動を統制し、領国を一つのまとまった組織として安定させ、他勢力との戦いに備えるため。

1. 家臣たちの不満を解消するために、すべての裁判を幕府の裁定に委ねる必要があったから。

2. 海外から伝来したキリスト教の教えに基づき、平和な社会を築くことが求められたから。

3. 貨幣経済が浸透し、武士が戦うことよりも商業に従事することを推奨したから。

4. 家臣同士の私闘による戦力の消耗を防ぎ、大名を中心とした組織的な団結を固めるため。

1. 喜望峰 2. スエズ運河 3. マゼラン海峡 4. パナマ運河

1. 北アメリカ大陸にあると信じられていた黄金の国「ジバング」を探索するため。
2. イスラム商人やイタリア諸都市に仲介料を奪われず、高価な香辛料を直接入手するため。
3. 当時中国を支配していた元との貿易を拡大し、絹織物や陶磁器を大量に輸入するため。
4. 地動説を証明するために、西回りで航海して地球を一周することが目的であったため。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 ルター	16世紀のドイツにおいて、神学教授であったルターは、カトリック教会が教会の改築資金を集めるために免罪符（贖宥状）を販売していることを批判しました。これが宗教改革の始まりとなり、後にプロテスタントと呼ばれる新しい宗派が生まれるきっかけとなりました。同時期の日本は室町時代末期から安土桃山時代にあたる戦国時代でした。
問2	答え 1 宗教改革 ― イエズス会	ドイツのルターが始めた宗教改革により、カトリック教会は大きな打撃を受けました。これに対抗し、カトリック教会の立て直しと海外布教を目的として結成されたのがイエズス会です。イエズス会の創立メンバーの一人であるフランシスコ・ザビエルによって、日本にキリスト教がもたらされました。
問3	答え 2 分国法	室町幕府の権威が衰えた戦国時代、各地の戦国大名は実力で領地を支配する必要がありました。そこで、家臣同士の私的な争いを禁じる「喧嘩両成敗」の原則などを盛り込んだ独自の法を定め、領国内の秩序を維持しようとしていました。鎌倉時代の御成敗式目や、江戸時代の武家諸法度とは制定された時代や目的が異なります。
問4	答え 1 キリシタン大名	九州や近畿地方の戦国大名の中には、貿易による経済的利益や、鉄砲・火薬などの軍事物資を入手するために宣教師を保護し、自らも洗礼を受ける者が現れました。このような大名はキリシタン大名と呼ばれ、代表的な人物に大友宗麟などがいます。
問5	答え 3 分国法（家法）	室町幕府の権威が衰退し、守護大名が自立して戦国大名へと成長する過程で、自らの力で領国を維持・統治する必要が生じました。そこで、大名は幕府の法律に頼らず、独自の統治ルールとして分国法を制定しました。今川氏の『今川仮名目録』や武田氏の『甲州法度之次第』などがその代表例です。
問6	答え 3 家臣を農村から切り離して監視下に置き、大名の支配力と軍事動員力を高めるため	戦国大名は、家臣が自分の領地に深く根を下ろしていると反乱の恐れがあると考え、一乗谷のような拠点に家臣を住まわせることで直接的な監視を行いました。同時に、一箇所に家臣やその兵力を集めることで、戦時に迅速な出陣が可能となる軍制を構築しました。これは、後の豊臣秀吉らによる「兵農分離」へとつながる重要な政策です。
問7	答え 1 種子島に漂着したポルトガル人によって、1543年に伝えられた。	鉄砲は1543年、鹿児島県の種子島に漂着したポルトガル人によって伝えられました。当時の島主であった種子島時堯がこれを買取り、刀鍛冶に命じて国産化を試みたことが、その後の日本国内での普及につながりました。モンゴル襲来時に使用された「てつほう」は火薬を用いた投擲武器であり、火縄銃とは構造が異なります。
問8	答え 3 鉄砲や火薬などの軍需品を調達する資金や、家臣への恩賞とするため	戦国大名は、自国の軍勢力を強化するために多額の資金を必要としていました。特に種子島に伝来した鉄砲やその弾薬となる鉛、火薬の原料となる硝石を海外から購入するための支払い手段として、また功績のあった家臣への報酬として、銀は極めて重要な価値を持っていました。
問9	答え 1 鉄砲の威力に対抗するため、高い石垣や厚い壁、複雑な堀を備えた城が築かれるようになった。	鉄砲の普及は、城のあり方を大きく変えました。それまでの簡素な「山城」から、鉄砲の攻撃に耐えうる強固な石垣や、敵を迎え撃つための窓（狭間）を持つ天守などを備えた「平城」や「平山城」へと進化しました。これにより、城は軍事拠点としてだけでなく、領主の権威を象徴する政治的中心地としての役割も強めることとなりました。
問10	答え 4 領内の武士や農民の行動を統制し、領国を一つのまとまった組織として安定させ、他勢力との戦いに備えるため。	戦国大名は隣接する他の勢力と常に戦う状況にあり、領国内での内紛は命取りとなりました。そのため、武士たちの勝手な婚姻を禁止したり、農民が年貢を納める義務を明確にしたりすることで、領地全体を強力に統率し、富国強兵を図る狙いがありました。
問11	答え 4 家臣同士の私闘による戦力の消耗を防ぎ、大名を中心とした組織的な団結を固めるため。	戦国時代は常に他国からの侵略のリスクがあったため、大名にとって家臣団の結束は死活問題でした。家臣同士が私的な遺恨で争い、戦力が削られることを防ぐため、分国法を通じて「争いの理由は問わず、両者を処罰する」という厳しいルールを課し、紛争の解決は大名による裁判に委ねさせることで、主君としての統制力を強めようとしたのです。
問12	答え 1 喜望峰	アフリカ大陸の最南端付近にあるこの地点は、ポルトガルの航海者バルトロメウ・ディアスによって到達され、のちにバスコ・ダ・ガマがここを通過してインド洋へと入り、インドへの航路を確立しました。大航海時代におけるインド航路の象徴的な中継地点です。
問13	答え 2 イスラム商人やイタリア諸都市に仲介料を奪われず、高価な香辛料を直接入手するため。	中世ヨーロッパではコショウなどの香辛料が非常に高価でしたが、陸路の貿易はオスマン帝国やイスラム商人、地中海貿易はイタリアの都市国家に独占されていました。ポルトガルはこれらの中間搾取を避け、莫大な利益を得るために海路での直接取引を目指しました。